

政策分野1 環境

～DO YOU KYOTO?(環境にいいことしてありますか?)を合言葉に、自然とくらしを気づかう「環境にやさしいまち」をめざす～

基本方針

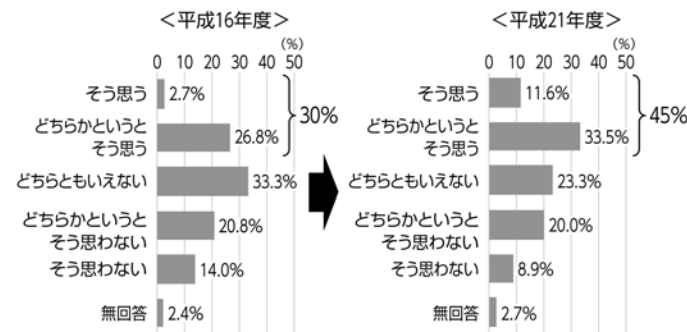
豊かな森林資源、伝統文化、進取の精神と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然とくらしを気づかう「環境にやさしいまち」の実現をめざす。

現状・課題

- 京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市でもある京都市は、低炭素社会及び循環型社会の構築に向け、全国を牽引する役割が求められている。
- 三方の山々や清らかな川の流れなど、わたしたちの身近なところで豊かな自然環境が存在する一方で、子どもたちが自然にふれあう機会が少なくなっている。
多くの子どもたちに自然環境を大切に思う気持ちを芽生えさせる必要がある。
- 温室効果ガス排出量が増加傾向にある家庭部門、業務部門を中心とした対策など、将来に向けた温室効果ガスの大幅な削減をめざしている。このため、「歩くまち・京都」、「木の文化を大切にするまち・京都」の実現、利便性のみを追求しない環境にやさしいライフスタイル(くらし方・生き方)への転換、さらには、産学連携による環境技術開発の推進などが必要である。
- ごみの発生抑制や限られた資源の有効活用などにより、環境への負担をできる限り低減する社会の構築をめざしている。ごみ量は着実に減っているが、さらなるごみの減量が必要であり、京都でくらし、働き、学び、そして、京都に集うひとびとの力を結集することが不可欠である。

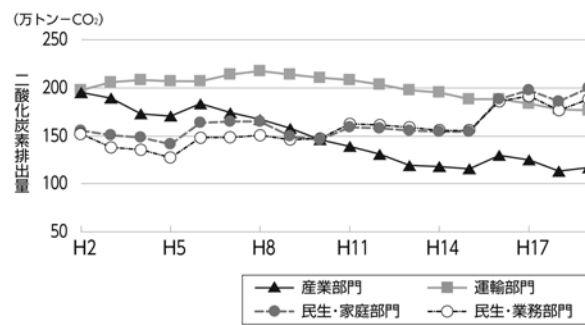
※ 下線の箇所は第1次案からの変更箇所です。

◆「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれていると思うひとが増加



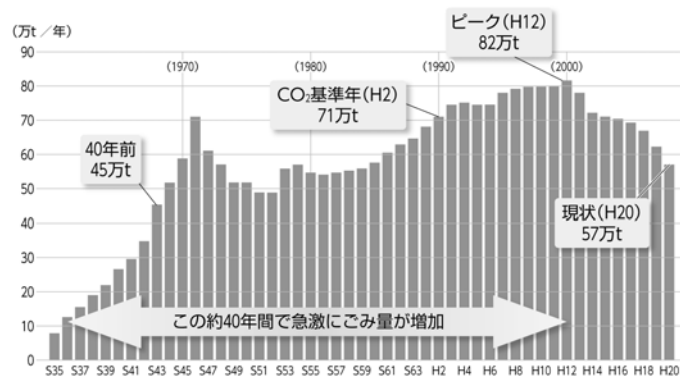
資料:京都市市民生活実感調査(平成21年度)

◆二酸化炭素排出量は家庭部門、業務部門が増加傾向



資料:京都市の地球温暖化対策(平成21年度版)

◆近年京都市のごみ量(市受入量)は減少傾向



資料:京都市循環型社会推進基本計画(平成21～32年度)

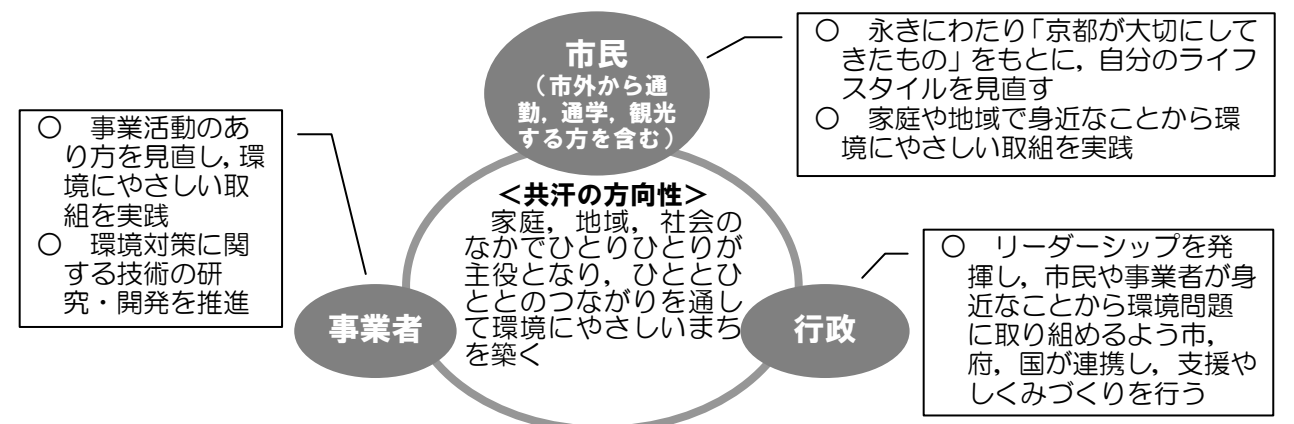
みんなをめざす10年後の姿

- 子どもたちが、**自然環境**をかけがえのないものと実感している
子どもたちが、三方を山に囲まれ、鴨川や桂川が流れる山紫水明の恵まれた京都の**自然環境**を身近でかけがえのないものとして学び、実感できるようになっている。
- 健全で恵み豊かな環境**が保たれている
ひとと自然のかかわりのなかで、環境への負荷を抑制することで、環境汚染、環境破壊の防止につながるとともに、多様な生物が息づく良好な自然環境が守り引き継がれていくなど、健全で恵み豊かな環境が保たれている。
- 「**低炭素型まちづくり**」が進んでいる
クルマ優先から徒歩や自転車、公共交通を優先する交通政策への転換、京都の歴史、文化などを生かしつつ、景観と調和した省エネ型建築物の普及促進など「低炭素型まちづくり」が進んでいる。
- 環境技術の開発、再生可能エネルギー資源の活用**が進んでいる
豊富で高度な知的資源を活用した環境技術の開発が進展するとともに、太陽光や小水力、バイオマス(生物由来の資源)などの再生可能エネルギー資源の活用が進んでいる。
- 「**京都流ライフスタイル**」が広がっている
地産地消の食文化、季節感を大切にする生活、「打ち水」「しまつの心」「門掃き」など伝統的な知恵を生かしつつも時代の進展に則した新しい「京都流ライフスタイル」が広がり、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践する市民や事業者が増えている。
- ごみを出さないくらしと事業活動**が広がっている
買い物時にはマイバッグを持参し、再生品を選択するなどの消費行動が定着している。事業活動においても、包装材の削減やリサイクルしやすい製品を開発するなど、環境への配慮で付加価値を高めたものづくりが進んでいる。
- 徹底した再資源化**が進んでいる
ごみの減量に取り組んでも、なお、出てるごみについては、地域コミュニティを生かした「身近に・気軽に出せる」環境が整うことにより、徹底した再資源化が進んでいる。

＜参考＞政策指標例

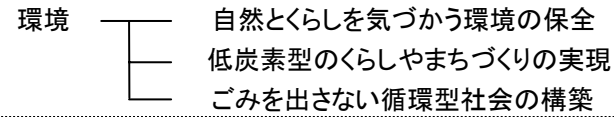
- ◆温室効果ガス削減率<1990年比> ▲6%_(H19) → - (検討中)
- ◆ごみの本市受入量《1人1日当たりの排出量》57万トン《1,070g》_(H20) → 39万トン《750g》

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

施策の体系



1 自然と暮らしを気づかう環境の保全

(1) 自然環境・生活環境の保全

多様な生物が生育し、さまざまな機能をもつ森林や里山、河川などにおいて、市民参加の森づくり、間伐などによる里山の再生、市民農園の活用、野外教育施設でのイベントの開催などを通して、市民が自然とふれあう機会をつくる。京都市の優れた自然環境を、後世に伝えていくため、京都市の地域特性を考慮した生物多様性の保全に向けた取組を進めていく。

また、新たな施設整備や市街地開発などを実施する前には、あらかじめ環境へ与える影響を予測することにより環境破壊を防止するとともに、自動車、工場事業場からの排ガス・騒音対策などや、市民・事業者と一体となったまちの美化の推進により、生活環境の保全を図っていく。

(2) 環境教育・環境学習の推進

市民のくらしに身近なごみ問題から、全人類の課題である地球温暖化問題まで、幅広い環境に対する市民の理解と行動を広げるため、環境保全活動を広く伝える人づくりや京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)をはじめとした拠点におけるさまざまな環境教育・環境学習の取組を進める。さらに、クリーンセンターや再資源化施設などの見学会を実施し、ごみ問題を見つめ直し、更なるごみの減量や分別・リサイクル意識の高揚を図る。

また、次世代を担う子どもたちに、環境にやさしい行動の実践が当たり前のこととして根付くよう、みずから考え、体験し、理解を深める機会を提供する。

2 低炭素型のくらしやまちづくりの実現

(1) 低炭素型まちづくりの推進

「京都市地球温暖化対策条例」に掲げる温室効果ガス排出量の削減目標の達成に向け、京都のまちの特性を生かした「低炭素型まちづくり」の取組を積極的かつ計画的に進める。

交通体系については、脱クルマ中心の歩いて楽しいまちを目指し、公共交通利用を促進する取組を進めるとともに、エコカーへの転換、カーシェアリングやエコドライブの普及を進める。また、建築物については、温室効果ガスの吸収源である森林の再生に向け、地域産木材の利用を促進するとともに、景観と調和し、環境に配慮した建築物の普及などを進める。さらに、日常生活や経済活動の低炭素化のため、市民や事業者による温室効果ガスの排出削減効果が、環境価値として経済的に評価され、取引される仕組みを構築するとともに、社会の低炭素化に資する先進的な環境技術の開発促進や環境産業の振興を図る。

(2) 再生可能エネルギー資源活用の推進

温室効果ガスの発生が少なく、枯渇の恐れがない、太陽光などの再生可能エネルギーの利用を促進する。三方を山に囲まれ、市域の4分の3を森林が占める京都市の固有性を生かし、木材、河川水などの自然の恵みの活用を推進する。

また、住宅への太陽光発電などの普及に加え、公共建築物や大規模な新築建築物への再生可能エネルギーの導入を進める。さらに、再生可能エネルギーを地域で効率的に活用する地産地消型のシステム構築を図る。

(3) 「京都流ライフスタイル」の定着

「DO YOU KYOTO?」(環境にいいことしていますか?)を合言葉に、市民や事業者と連携しながら、環境にやさしいライフスタイルへの転換に向けた実践行動を促進し、四季の移ろいを大切にする生活など、京都の伝統的な知恵を生かしつつも時代の進展に則した新しい「京都流ライフスタイル」の定着を図る。

また、家庭における温室効果ガスの削減を図るため、日常生活におけるさまざまな省エネ、省資源の取組を実践する。さらに、これらに関する知識をもつ専門家やボランティアが相談や助言を行い、持続可能な環境にやさしいくらしを提案する。

3 ごみを出さない循環型社会の構築

(1) 発生抑制・再利用(2R)の推進

生活のあらゆる場面で、ごみを出さない2R(リデュース:発生抑制, リユース:再使用)を重視したくらしへの転換に向け、市民においては、「すぐにごみになるものを家庭に持ち込まない」、「ものを大切に使う」、また事業者においては、生産や販売の段階で「すぐにごみになるものをつくらない」といった行動が定着するような取組を推進する。

特に、事業ごみについては、多量にごみを排出する事業場への指導及び分別できていない資源ごみのクリーンセンターでの受入拒否の実施などにより、徹底的な減量を進める。

(2) リサイクルの推進

家庭ごみ、事業ごみとともに、ごみの分別ルールの徹底や排出指導を強化し、可能な限り資源物を回収する。特に、京都のまちの強みである学区単位の活動、自治会・町内会などの地域力を生かした地域密着型の取組を推進する。

また、大学のまちとして多くの学生や海外からの留学生がくらし、国際文化観光都市として多くの観光客が訪れる京都のまちの特性を踏まえ、イベントなどのエコ化や宿泊施設などにおける分別の徹底などのリサイクルの取組を推進する。

(3) 適正処理とエネルギー回収の最大化

市民や事業者との協働によるごみの減量、リサイクルなどの取組を推進しても、なお排出されるごみについては、引き続き、適正に処理し、市民生活の安心・安全を守る。

また、クリーンセンターにおける焼却熱などを利用した高効率な廃棄物発電を行うことにより、ごみの持つエネルギー回収の最大化をめざす。

関連する分野別計画

京(みやこ)の環境共生推進計画	(平成18年度～27年度)
京都市地球温暖化対策計画(仮称)	(平成23年度～32年度)
京都市循環型社会推進基本計画	(平成22年度～32年度)